

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	豊根村・上松町との交流事業							
1-2 担当	部	市民生活部	課又は施設	市民協働課	係	協働推進係	評価票作成者	多文化共生担当係長 伊藤孝士
1-3 総合計画における施策の体系	節	計画推進 「効率的で顧客志向の行政運営」			基本施策	広域連携	コード	6 1 1
	項	広域連携			単位施策(中)	豊根村・上松町との交流	コード	6 1 1 3
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	豊明市・豊根村・上松町の職員及び住民	意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)		お互いの住民及び職員がそれぞれ交流することにより、相互理解を図る。職員においては、行政環境の異なった地域の実状を学ぶことにより、地元の行政に活かす。また、友好自治体内にある観光資源の有効利用を促し、友好自治体の産業に寄与する。			
1-5 事務事業の内容	本市職員の豊根村職員との交流事業。豊明まつり時の豊根・上松両自治体の物産品の販売。上松町の夏祭りでの本市物産品の販売。「湯ーらんど豊根」の入浴券の安価での販売。市民コーナーでの豊根・上松両自治体の紹介。							

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	職員研修で行っていた「豊根研修」を交流事業に切り替え、同分野の職員同士の交流を図った。他事業については従前どおり。	職員は行政のプロとして幅広い知識の集積が必要とされている。自然豊かな山村の自治体との交流は、市民の環境意識の改善につながる。			環境保全が叫ばれている現在、機会を捉えて自然豊かな場所へ赴き自然体験をしたいと考えている人も少なくない。温泉券の割引販売はそうしたニーズに合致している。
平成19年度	上記に加え、本年度は上松町で「市民植林事業」を実施し、現地住民と交流しながら、上松町への理解を深めた。	"		" 温泉券の販売価格については本年度値上げしたが、当市の財政事情もあり今後さらに考慮する必要がある。		
平成20年度	毎年上松町で行われる「桜の里の夏祭り」に本市のブースを出店して名産品を上松町の人たちにPRしているが、本年度はそれに加え、「桶狭間太鼓」の皆さんにもまつりに参加してもらい、現地で演奏して当市の文化を紹介した。	"		昨年度温泉券の販売価格を改定した影響か、今年度は売れ行きが悪く昨年度の3分の2程度の売り上げであった。社会情勢が急激に厳しくなり、雇用情勢も不安定であるので、遠方の豊根村まで足を運ぶことが難しい状況である。今後の経済情勢を見極めながら施策を実施していく必要がある。		
平成21年度	恒例となっている「桜の里の夏祭り」に、今年度は「大脳の梯子獅子」の皆さんに参加してもらい、まつりを盛り上げると同時に本市の名産品も販売した。また、森林保全事業と銘打って赤沢休養林の歩道へのチップ撒きを豊明市民・上松町民の合同で行った。	"		現在温泉券の販売価格は大人200円、子供100円であるが、本市が豊根村から購入する価格は、大人375円、子供164円であり、温泉券を販売すればするほど経費がかかる構造となっている。少しでも経費を軽減を図るため販売価格の見直しが必要である。		
平成22年度	今年度「桜の里の夏祭り」には、「豊明乱舞」に参加してもらい、まつりを盛り上げると同時に本市の名産品も販売した。また、森林保全事業は、滑川砂防公園地内にて、滑川河川敷内森林整備及び遊歩道等の枝の除去を豊明市民・上松町民の合同で行った。自然豊かな山村の自治体との交流は、市民の環境意識の改善につながる。今年度温泉券の価格を大人300円、子供150円に、経費を軽減を図るため販売価格の見直しをした。本市が豊根村から購入する価格は、大人375円、子供164円であり、財政難のおり本市の経費の軽減につながった。					
平成23年度						
平成24年度						
平成25年度						
平成26年度						
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	友好都市への交流イベントによる訪問者の数(延べ人数)		3,000(人)	4,000(人)	豊根村・上松町が本市の友好自治体であり、何人の人が訪れ、相手自治体を体験しているか。より多くの人が訪れることにより、交流も理解も深まる。

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)	活動実績 a(単位)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
		直接事業費 b(千円)	291	816	460	354	450				
人件費 c(千円)	355	528	349	365	329						
合計コスト d(b+c)	646	1,344	809	719	779						
単位コスト d/a(千円)	交流事業当たり 161	交流事業当たり 224	交流事業当たり 134	交流事業当たり 120	交流事業当たり 156						

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 豊根温泉券は仕入れ値が450,000円に対し、売上が253,400円であったので、この件にかかるコストは196,600円である。また、売上にかかる人件費は、1,182枚の売上に対し18時間(一枚あたり1分)と見積り、3,100円×18時間=55,800円とした。豊根村スキー場オープンについては、職員人件費1名分であり、3,100円×1名×8時間=24,800円とした。上松夏祭りへの参加は、職員人件費4名分であり、3,100円×4名×8時間=99,200円であると積算した。市民森林保全事業においては、職員人件費2名分であり、3,100円×2名×8時間=49,600円またバレーボール交流事業においては、職員人件費 3,100円×4名×8時間=99,200円とした。

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2-4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(人)	2,000	1,500	1,000	1,200	1,322					
	後期目標値に対する達成度	50.0	37.5	25.0	30.0	33.0					

3 事務事業の自己評価結果

3-1 評価結果(アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	単年度担当課評価	B	B	B	B	B					

4段階評価結果 A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 D : 事務事業の廃止が相当

判断の基準 必要性(必要な事務事業であるか)
 公共性(公が実施する意味があるか)
 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3-2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識		次年度に向けて改善する取組み		事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価	
	平成18年度	市民の環境意識の高まりとともに、自然豊かな山村に出向き、体験したいと感じる人たちが増えていくことが予想され、様々な方策を講じ、現地に訪れることができるようになる。また、本市の特徴を相手側に積極的に伝え、相手側からの本市訪問を増やしていく必要がある。		様々な市民や団体が交流できるようなイベントの開催や、現在行われているイベントへを改良し、多数の人たちが交流できる環境作りを行う。		職員研修事業として実施していた豊根村訪問を、交流事業に変更し、相手方の職員との交流ができるよう手がけ、お互いの行政内容を知ることができた。市民交流については、温泉券の安価での販売、お互いの夏祭り等での出店をしている程度であり、もう少し裾野を広げたい交流が必要であるが、財政的な問題もあり、実施が難しい。
平成19年度		"	これまでの事業に加え、スポーツ交流(バレーボール)が上松町との間で始まった。今後は他の種目や文化交流の可能性を同町との間で協議したい。		豊根村での職員研修事業を交流事業とし、昨年度から開始したが、財政上の理由もあり来年度は日帰りで実施することとした。職員の滞在が短くなるが、現地職員との交流事業は減少させることなく行っていきたい。また、財政難の折、温泉券の販売価格も、より原価に近い価格が求められる中、市民が気軽に訪れることができる環境を維持することが非常に難しい状況である。行政主導ではなく、各種団体や民間の結びつきが強まるような事業を構築する必要がある。	
平成20年度	上記に加え、経済情勢が悪化している現在、より安価な交流ができるようなプラン作りが必要である。		昨年までの事業に加え、今年度は上松町の夏祭りに、市民団体である「桶狭間太鼓」のメンバーが参加し、本市の文化を紹介した。今後は、伝統文化を含めた交流を視野においた活動を実施したい。		左記にも記したが、市内の団体が市を代表して友好都市を訪れることができたことは、今後の交流内容をより充実したものとする端緒となった。温泉券の売り上げが落ち、交流人数が減少したが、経済状況悪化の中ではやむを得ない部分がある。できるだけ費用をかけない交流を模索する必要がある。	
平成21年度		"	昭和52年以来続けてきた職員の交流及び研修事業は、3年前から研修目的から交流目的に変更された。対象者は入庁3年目の職員であるが、受けてである豊根村の職員は毎年同じ担当者であり、しかも、山村であることから本市の業務上参考になる事例を見出すことが困難な状況である。市と村の違いを実感できるという効果はあるものの、人員の削減や予算の削減がなされている現在、この事業の中止を考えるべきである。		左記のことを考慮に入れながら、できるだけ経費をかけずに交流しようと心掛けた。しかし、地理的に離れており、人的交流を図るとなると、どうしても移動の経費等がかかってしまう。豊根村制120周年の折には「豊明乱舞」がボランティアとして、先方のイベントに参加し盛り上げることもできた。	
平成22年度	市民の環境意識の高まりとともに、自然豊かな山村に出向き、体験したいと感じる人たちが増えていくことが予想され、様々な方策を講じ、現地に訪れることが出来るようになる。また、本市の特徴を相手側に積極的に伝え、相手側からの本市訪問を増やしていく必要がある。昭和52年以来続けてきた職員の交流及び研修事業は、検討した結果中止とした。広報等による双方の情報を交換し理解を深め広報に掲載し紹介する。できるだけ経費をかけずに交流しようと心掛けた。豊根村にある茶臼山スキー場オープンの際、のぶながくん、よしもとくんの参加によりオープンを盛り上げることもできた。上松町については、上松祭りの豊明乱舞の参加や森林保全事業では、双方の住民交流ができた。また、今年度は、大脳の梯子獅子へ豊根村、上松町より観覧にみえるなど交流ができた。					
平成23年度						
平成24年度						
平成25年度						
平成26年度						
平成27年度						

4 事務事業の総合評価結果

4-1 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	B	豊根・上松の人たちが本市を訪れる機会が少ないため、市内各種団体と相手都市の団体同士の結びつきが強まるような計画が必要である。	
平成19年度	B	豊根・上松から本市を訪れる機会が少ないため、事業コストを考慮しながら市内各種団体と相手都市の団体同士の結びつきを強める工夫をすること。	
平成20年度	B	往來が増加するような事業を検討すること。	
平成21年度	B	行政主導の交流から脱却し、住民同士が自立的に交流できるような環境を整えること。	
平成22年度	B	積極的に交流事業を行い、往來が増加するように努めること。	
平成23年度			
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			